



## 安来節 浅草寺奉納公演

—— フォトレポート ——



# 江戸の秋空に響く安来節



▲どじょうすくい踊りの体験コーナーには多くの人々が参加しました。



▲公演は多くの観衆が集まり、境内に安来節が響き渡りました。



▲仲見世通りを安来節の一行が進み、「お練り」で安来節公演を知らせます。



▲外国人観光客は安来節に興味しんしん。盛んにシャッターを押します。



▲奉納公演は2回行いました。唄に踊り、銭太鼓など、本場の伝統芸能を奉納・紹介しました。参加した安来節保存会一行。

初代お糸が東京でレコードに唄を吹き込んだのが1915年(大正5年)。これを機に民謡安来節は全国に広がり、爆発的人気となります。東京界隈では安来節の専門館が誕生し、その中心が浅草の地でした。大震災や戦争で一時的に断れますが、昭和50年代まで専門館は残ることになります。

安来節が大流行した時代から一世紀。ゆかりの地・浅草に安来節の唄が響き渡りました。浅草寺で奉納公演が行われた10月10日。家元四代目渡部お糸をはじめとする一行が本場の唄や踊りを披露しました。

今回は、浅草寺五重塔が先月改修を終えたことを記念した奉納公演。過去の歴史的なつながりがあったご縁で実現しました。五重塔を背に、安来節の唄がはじまると、多くの参拝・観光客、そして外国人たちが笑顔になりました。